

あげ、線香とお供えし、納め札と写経を入れ、般若心経と、本尊様と、大師宝号と回向をおとなえて次のお寺へと巡礼の始まりです。お寺自体はごも大差が無く周囲も良く似た感じで一生懸命付いて回るだけの自分には今考えてはつきり記憶に残っているところは皆無です。

七十三番出釈迦寺、七十四番甲山寺、七十七番道隆寺、七十六番金倉寺と隣接されたお寺で最長でも十分かからない距離にあり、名運転手さんは順序良く移動して最短距離で参る事ができました。

七十五番善通寺は高野山、京都の東寺と共に弘法大師の三大霊場であり、大師の誕生寺として有名なお寺で敷地も広く全部見ると出来なかつたが、五重塔、大楠木を眺めながら金堂に迎いました。今までのお寺と違いお遍路さん、観光の人達が多く御影堂に行くのに迷いそうになりました。戒壇めぐりをする事になりました。

戒壇めぐりとは仏様に見守られながら闇の中を心静かに進み行く精神修養の場だそうです。御影堂の床下にあり闇の中を手さぐりで歩きます中央付近で薄明るくなり八十八ヶ所霊場の本尊様がお祭りされているのをお祈りし、又闇の中に入って出口に向かう約一〇〇メートルのトンネルでしたが、長く感じました。尚早朝練習したは歌は唱えられませんでした。

お昼は昨年利用した四国館で、食後は早くもお土産を買っていた人もいました。

運転手さんの計らいで見学場所を変更して国道沿いの中津万象園・丸亀美術館に急ぎ変更になりました。

久しぶりの庭園に、これまでの疲れを癒しゆつくりと散策しました。そして明日の二ヶ寺を今日中に参る事になったので次のお寺に急ぐ。

七十八番郷照寺・厄除け祈願の寺として有名、土産に厄除けの指輪を五個買つた。

七十九番天皇子（高照院とも云う）十月半ばも歩くと結構暑く汗がにじんでいました。道中とこころの美味しい地区といった話を聞きながら、歩いたおかげで石段は無かつたように記憶しています。

今晩の宿泊地区を通過五色台の西にある、白峰を登り瀬戸大橋も見えると云う頂上に白峰寺がありました。

次に今日最後の参拝八十二番根香寺へ、つるべ落としのこの時期に早くも薄暗い

駐車場に、野生の犬が親子して数匹出て来てくれた。観光客、巡礼の人達が餌を与えるのか馴れ馴れしくおとなしかった。

今日の宿「瀬戸内荘」に到着、しばらくフロントで待つ、やっとエレベーターまで案内され五階に全員のお部屋があるので、別れて入るように云われた。五〇五号室探してやっと落ち着く。食事まで時間が有ったけど気分が悪く部屋で休んでいた。やっと食事の時間になり、最後のお参りでもあり運転手さんも合せて話も弾み、ゆつくりとくつろぎました。食事のうどんが美味しかったので土産に送ってもらい、風呂に入り早めに床につきました。

朝六時起床、寝不足気味だったけど元気に七時五十分には出発、国道十一号線を東に、国道沿いの八十番国分寺に着く。仁王門を入ると参道の両端に、ミ二八八箇所めぐりが造られていた。お大師道はお店の中から参りするようになっていて耳が良く聞こえるようになると思う耳かきを買った。

一宮寺、八栗寺、庵治石の産地で、発掘後の山肌は削られ真っ白になっていた。裾野は石屋さんがあちこちに看板を出していた。ケーブルカーでお参りする。

八十四番屋島寺です、屋島ドライブウェイを登り駐車場に着く、昔観光できたときの混雑さは全然なく空店舗が目立つ参道を急ぐ。参詣後かわら投げのある場所まで行って見たけど閑散としていた。屋島登臨と云う参道にある土産店で昼食。屋島狸の置物を結願の記念として買った。そして約束どおり栗林公園の散策をやめて、国道十一号線を下り志度寺、長尾寺、大窪寺へと結願寺まで到達。前回の様に記念写真を撮りお参りからお土産買いにバスは、下車場所、乗車場所を変えて付き合せて下さいました。そして塩江経由高松港へ出航間際のフェリーに滑り込み皆はつとしました。バスから降り客室に上って身体を休めました。船にはテレビもあり、北朝鮮に拉致された被害者五人が十五日、二十四年ぶりに帰国、家族らと再会した様子を放映していました。結局朝日寺に着いたのは十九時ごろで予定より早かつた。

高杉運転手さん、有難うございました。ずっと先導くださいました朝日寺奥様には、大変お世話になりました。皆さんが元気で無事お参りできました事に満足し、感謝しています。有難うございました。

御詠歌だより

庄田 木村延子

明けまして、おめでとうございます。お大師様を讃え、ゆつたりとお唱えする御詠歌の練習は、私にとつて身と、心を安らげてくれるひと時になっています。永年修行をして来られ、私達をご指導下さっている大奥様、小川様、水野様、金塚様は、中々戴けない位に昇補されました。誠にめでとうございました。

朝日寺での行事に合わせて、毎年大会があります。昨年は、明るい詩曲で、様々な「福」を授けて下さるといわれている「七福神」を練習してきました。

唱え奉る「七福神」第一番の御詠歌に「釣り上げし魚を宝と抱きしめて、笑う恵比須の神の御威徳」。

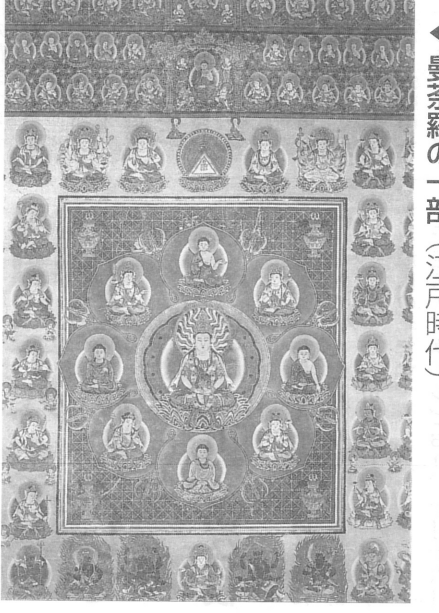
熊手で「福」をかき集める縁起がいいとされる「七福神」を、約二分十八秒でお唱えする恵比須さん。子供の時は、遊ぶものが少なかつたので、小さい置物を箱から出したりしまつたりして祖母さんにあれこれ話を聞かされ、順番に並べ替えてもらっていた頃をふっと思ひ浮べます。

昨年の六月二十五・六日の二日間に涉り、第二十七回中国ブロック奉詠舞大会が鷺羽山ハイランドホテルに於て開催されました。今回は頭出しを載き、一音、一音、先輩の方々から親切に教えて下さり、乍ら練習してまいりました。大会の日が近づくにつれて、田植え、ぶどう等色々重なりましたが、何とか参加する事ができました。同組の三人に支えてもらい、昨年に続いて団体の部で、又個人の部でも良い成績を収める事が出来、大変嬉しく思いました。これも偏に、お大師様の御陰だと思っております。

先輩の方々には、益々御健康で、これからも宜しくご指導お願い致します。「笑う門には「福」来たる」 合掌

宝物保存会

- ・会員数三百十四名
- ・現在までの修復物
- 【仏像】
- 弘法大師坐像・
- 千手観音坐像・
- 八臂弁財天坐像・
- 多聞天立像・
- 愛染明王坐像・
- 神立像・
- 薬師如来像・
- 小型大日如来坐像
- 【掛軸】
- 高野山細見絵図
- 【経本】
- 仏説阿弥陀經・妙覺心地祭文
- 【装飾品】華まん



曼荼羅の一部（江戸時代）

新会員募集

《会費》年一万円
新会員の方に「朝日寺の宝物」(写真集)を差し上げます。
《振込先》〇一三九〇一七六六一一六

バタン漂流記

今から約百七十年前の江戸時代末期、尻海の人達が乗り込んだ千石船、神力丸が備前藩米を積んで江戸へ向かう途中、暴風雨にあい漂流の後、フイリピンへ流れ着き、現地の人に助けられ二年後、無事に尻海へ帰ってきました。鎖国時代の貴重な体験を岡山県立博物館副館長の白井洋輔氏が書かれました。御興味の方は朝日寺へお申し込み下さい。定価は二千八百円です。

お寺の「利用」について

近年、自宅外で葬式・法事を営む人が増えてきました。お寺で葬式をされた場合、使用料として当日のみの方は十万円、前日からの方は十五万円を頂きます。祭壇料が必要ありませんので随分安くてすみます。

法事の場合、使用料は特にありませんが食事をした時は一万円頂きます。

朝日寺墓苑

お供え物は持ち帰りを。供えられた物が、鳥や猫によって食い荒らされたり、用器が風であちこちに散乱して地域に悪い影響を与えています。お花以外の物はお持ち帰りいただく様お願い致します。

お寺から「お願い」

飲酒運転に対する罰則が厳しくなり、飲んだ人だけでなく飲ませた人も同罪となりました。葬式・法事等でお酒を勧められる事が多いのですが、今後、車でお伺いした場合はお断りいたしますので御了承下さい。

ご寄付

大土井において作陶に励まれている信楽焼作家、松川広己氏が大壺を、又、尻海西部の松井時香さんが本堂前の石段に手すりを、さらに、虫明の山根一成氏が椅子とお看経をご寄附下さいました。



役員名簿

総代会

(◎総代長、○副総代長)

- | | |
|-----|-------|
| 大東井 | 川野正弘 |
| 大東東 | 森隆明 |
| 大東中 | 畑中昭男 |
| 大東市 | 清野範雄 |
| 大東西 | 松井立男 |
| 大土井 | 松下栄 |
| 高助 | 武本弘 |
| 庄田東 | 木村章 |
| 庄田西 | 千種健吾 |
| 渡内 | 久本巽 |
| 下寺 | 武内勉 |
| 問口 | 内田貞市 |
| 前泊 | 山根一成 |
| 庄田東 | 内田美弥子 |
| 庄田西 | 三浦文子 |
| 渡内 | 森下英子 |
| 大土井 | 藤中ひさみ |
| 西市場 | 千種友江 |
| 大東東 | 北野周子 |
| 大東中 | 大倉昭子 |
| 大東西 | 奥山洋子 |
| 尾張 | △西岡仁美 |
| | 福井清子 |
| | 川野美佳 |
| | 安達米子 |
| | 内田ひろみ |

密教婦人会

(◎会長、○副会長、△会計)

- | | | |
|-----|-------|-------|
| 下寺 | 山本六子 | 山本早苗 |
| 問口 | 内田瑛子 | |
| 前泊 | ○武内くみ | |
| 庄田東 | 内田美弥子 | |
| 庄田西 | ○三浦文子 | |
| 渡内 | ○森下英子 | |
| 大土井 | 藤中ひさみ | |
| 西市場 | 千種友江 | |
| 大東東 | 北野周子 | 児玉洋子 |
| 大東中 | 大倉昭子 | 蓬玉枝 |
| 大東西 | 奥山洋子 | 佐賀保子 |
| 尾張 | △西岡仁美 | 大倉信子 |
| | 福井清子 | 心光君子 |
| | 川野美佳 | 川野尚子 |
| | 安達米子 | 内田ひろみ |